

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	らいおんきっず				
○保護者評価実施期間	令和8年 5月 1日		～	令和8年 5月 20日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	6	
○従業者評価実施期間	令和8年 5月 1日		～	令和8年 5月 20日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5	
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 22日				

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験豊富な専門職が在籍している。職員の離職が少ない。	多職種連携によって、児童の発達状態や課題を検討しながら、それぞれの発達に合わせた支援を実施している。	内部研修や外部の勉強会へ参加することで、職員全体の専門性の維持向上を図る。
2	少人数制の為、一人一人の児童との関わりを深く持つことができる。	職員全体が各児童との関わりを深く持つことができ、発達レベルや課題を明確にすることで、児童の特性に合った支援を実践している。また、職員間の情報共有が密になされている。	都度、現場で職員間のコミュニケーションを図り、円滑な支援を実践し、児童の快適な活動につなげる。
3	児童の全体的な成長を支援するため、5領域に着目したプログラムを実施している。	各児童の特性に合わせた、5領域の活動を設定し、職員全体で活動を計画的に実施している。	活動後に振り返りを会議を行い、実施内容と反応を共有することで、次回以降のプログラムの改善や調整を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育スペースがやや狭く、活動が制限されることがある。	日によっては、利用児童の特性により十分な活動スペースを確保できない場合が生じている。	屋外活動をプログラムに追加するなど、児童の活動の場を確保するように務める。
2	地域との交流の機会が十分とは言えない。	近隣地域内に施設がなく、情報交換などの機会が限られている。	地域の活動があれば、参加し、情報を発信していく。
3			